

屋根裏DENを造る——ポーンズホーム・小玉正彦さんに訊く

「建築基準法では、2階床面積の半分の屋根裏部屋を造ってよいことになっていません。屋根裏を活用すれば、家の中に思いもよらない大空間が生まれます」と話すのは、屋根裏リフォームを専門に行うポーンズホーム代表の小玉正彦さんだ。

前出の東急アメニックス・矢部さんによれば「天井根太から棟木までの高さは1・7m以上あるのが望ましい」とのことだが、「寄棟だと厳しいですが、屋根の形状が片流れか切妻なら、1・4mでも屋根裏DENを造れる可能性がある。工法が2×4なら、梁と棟との間に建てる東柱が少なく、より空間を確保しやすいんです」

まずは補強のために天井根太の本数を増やしてからフローリング材を敷く。次に床の一部をくりぬいて折り畳み式の収納階段を取り付け、2階から屋根裏への経路を作る。収納を目的とした屋根裏リフォームなら工事はこれで終了。ちなみに工事代は基本セット料金10万8000円と、1畳あたり2万円のフローリング材敷き込み費用の合計となる。この先はDENとしての居住性を高めるための工事だ。小玉さんが仕事場としている自宅2階の上に造った屋根裏DENを例に、以後の工事内容を見ていこう。

最初に電気の配線を施したうえで、小屋裏と内壁に直接ペンキを塗り、北と東の2カ所に通風と採光のための小窓を設置した。電気配線代は2万円、窓設置はひとつあたり4万円。小玉さんは省略したが、より

居住性を高めるためには小屋裏をベニヤ板でふさぎ、間に断熱材を詰める工事も併せて行うとよい。そのコストは5万円だ。

完成した屋根裏DENは広さ約1・5畳。屋根が北から南に向かって低くなる片流れ型なので、天井高は最も高いところで1・8m、低いところで0・3mとかなり落差がある。窓がふたつあり、風は通るものの、エアコンが設置されていないため夏の使用はほぼ不可能。ただ冬は暖房なしでも暖かく快適だという。

「お客さんに見せるデモモデルとしての意味もありますが、ひとりになれる空間が欲しくて4年前に造りました。今はテレビを持ち込んで映像空間にしようと計画中です」

家具はワイン箱の上に集成材を渡した簡易テーブルだけ。壁は白く塗り、フローリング材も薄茶色を選んでいるため、見た目の圧迫感はない。ただし、立ち上がった時、移動したりする時は当然、腰をかがめなければならぬ。居心地重視派より、「籠もり感」や「屋根裏」という秘密めいた言葉に魅力を感じるタイプこそ、屋根裏DENはお薦めだ。

TEXT: Fumi FUKUZAWA



屋根裏へは、折り畳み式の収納階段で上がる。

屋根裏DENのチェックポイント

- ①屋根の形状を把握する(片流れ、切り妻など)。
- ②どの位置に収納階段を設置するかに気を付ける。
- ③採光・通風に留意する。
- ④2×4工法の住宅は、比較的屋根裏DENを造りやすい。

問い合わせ先: ポーンズホーム
〒155-0031
東京都世田谷区北沢1-3-4
TEL: 0120-89-0130
<http://www.geocities.jp/borns1965>
E-mail: borns1965@ybb.ne.jp

「ポーンズホーム」代表の小玉正彦さん。



DATA
東京都小玉邸(一戸建て)
工賃: 19万8000円
工期: 1日
担当店: ポーンズホーム



収納階段の高さを上げれば、下の部屋を広く使うことができる。

小玉さんが自室の屋根裏に設けたDEN。小窓を設けた採光十分のDENだ。